

「若狭の自然の中で＜不登校児童生徒支援事業＞～東海市との連携～」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
—	—	22	22 (愛知県東海市)

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・課題を抱える児童・生徒が、若狭湾の雄大な自然の中で心身をリフレッシュするとともに、参加者同士や参加者とボランティアの交流を図り、チャレンジしようとする意欲を高める。
 - ・課題を抱える児童・生徒が自然体験活動を通して、より良い効果を得られるようなプログラム開発を行い、近隣青少年教育施設・教育委員会・学校等にプログラムの提供及び発信をしていく。

◆期日・期間

2013年9月14日（土）～ 2013年9月15日（日） 1泊2日
(台風18号の接近により、15日午後に退所措置)

◆連携機関

東海市教育委員会（適応指導教室：ほっと東海「横須賀教室」「上野教室」）

◆ 参加者分析

- ・ 東海市適応指導教室（ほっと東海）に参加している児童・生徒および適応指導教室（ほっと東海）スタッフの計47名が参加。
 - ・ 児童・生徒は所属教室ごとのまとめりが2教室あるが、東海市内の小中学校で保健室登校をしている児童・生徒の参加を含め、全体が顔を合わせるのは今回が初めてであり、実質的に別個の3グループからなる。

◆企画のポイント

- ・予めにパッケージされたプログラムを消化するのではなく、参加者個人が興味・関心を元に「自分で決めた」内容に取り組むことで自己決定能力、責任能力を育むことを目的に、選択プログラムを中心に日程構成を行った。
- ・参加者の普段の生活で海との関わりが薄いことより、臨海型施設の特徴を最大限に活かし海のプログラムを中心とした活動を実施した。

◆運営のポイント

- ・日常生活で基本的生活習慣を確固に確立していない子どもが見られることから、集団生活における基本姿勢は重視しつつも、ゆとりのある内容展開を持って参加者各人の負担が過大にならないよう配慮した。
- ・施設到着後より海を感じることのできるスロー系のプログラムからスタートさせ、段階をおってアクティブラーニング的プログラムへと移行し、児童・生徒の体力的・心理的なペース配分を考慮したプログラム構成とした。

◆安全管理のポイント

- ・ボランティアに対し、事前に講習を実施し、適切に人間関係を築けるように配置し、安心して活動できる配慮を行った。
- ・水辺活動については余裕を持ったスタッフ配置と入念な事前指導を行った。
- ・時間にゆとりをもってプログラムを立て、参加者達の準備をしっかりと取ることにより、安心して活動に参加できるように配慮した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

＜参加者＞

項目	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	50%	45%	0%	5%
この事業のプログラムはどうでしたか	50%	45%	5%	0%
この事業の運営はどうでしたか	32%	50%	13%	5%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・1泊2日がさみしかった。
- ・リラックスできた。海の中は楽しくて、夢中になった。
- ・時間がゆったりだった。
- ・時間がきゅんきゅんだった。
- ・あまり楽しくなかった。
- ・知らない人と仲良くなれた。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・事業実施に当たり、3回の事前打ち合わせを行ったことで、東海市側の意向を十分に考慮しながら、プログラム構成を行うことができた。また、その打ち合わせにより、本施設との意識の共有を図ることができた。
- ・事前に、2つの適応指導教室に通級している参加者たちと、学生ボランティア数名との交流会を開催したことで、参加者の精神的ストレスを和らげ、スムーズに当日の活動がスタートすることができた。
- ・1泊2日になったことによりあえて海の活動を選択した子どもたちもいたため、多少ストレスがたまる事業担った可能性もあるが、一歩踏み出す機会ととらえると事業として効果的な事象であったとも言える。特にシーカヤックやスノーケリングに参加した子どもたちが事後ではかなり前向きな発言をするようになった。この効果を数値や言動などからより詳細に分析し明確にすることで、効果的な支援につながると考える。

- ・関わり方に戸惑うボランティアもいたが、日々の振り返りで関わり方を考え、参加者との適切な距離間のもと、和やかな時間を共有することができていた。

(2) 課題

- ・参加者の実態が年度によって異なるため、交流会、当日、その後とそれぞれに東海市からのねらいにそった評価の視点や活動を組み立てる必要がある。
- ・個に応じて、時間設定の感覚が違っている。「きつい」と感じている子どもへの支援を適切に行う必要がある。そのためにも、より深く子どもの実態に関する情報交換を実施していくことが今後大事であろう。またボランティアの関わりも重要である。子どもに対する理解を短時間で行うのは無理があるが、緊張感を和らげるための支援などより幅広い手立てを養成していく必要があろう。

5. 活動の様子



始めのつどい



アイスブレーキング



海とふれあう



夕日の観望



ボラとの交流



朝のつどい



浜遊び



シーカヤック



スノーケリング



磯釣り



終わりのつどい